

令和元年度 司書補講習 講義概要(シラバス)

生涯学習概論

講師 にしむら 西村 みとし 美東士

講義概要・授業計画 図書館は、人と本をつなぐことによって個人学習を支援する。だが、生涯学習時代においては、さらに新たな意義と役割が期待される。それは、人と地域資源や社会資源の情報をつなぐことによって、人々の学び合い・支え合いのネットワークづくりやまちづくりの活動を支援するという役割である。

現在、社会教育主事講習は、「学校地域協働活動」、「ネットワーク型行政」をキーワードとして、レベルアップが図られようとしている（『社会教育主事の養成等の在り方に関する調査研究報告書』文部科学省等）。図書館専門職（司書・司書補）も、これらのキーワードについて、高い意識をもつ必要がある。そこで、本図書館司書補講習においても、このような新しい観点を取り入れつつ、次のような内容を学修することとする。その際、自己の図書館職員としての位置づけを確かなものにできるよう、自己内対話、対他者対話を積極的に取り入れた能動的学習、双方向型学習を行う。

まず、資格取得のための学習、生きるための学習、楽しみとしての学習の意義と実際について検討する。次に、居場所としての図書館、図書館と学校との連携、図書館の学校との差別化について検討する。教育の原理については、学習者主体、目標設定などの意義について理解する。押しつけでは文化は育たない。しかし、教育目標を設定せずして、教育は成立しない。これをどうとらえるか。さらに、社会教育の意義・発展・特質を把握する。自治体の行財政制度と教育関連法規を把握する。社会教育の内容・方法・形態については、個人学習と集合学習、個人の学習の自由、アクティブラーニングの課題、自己内対話の充実について検討する。また、学習情報の提供と学習相談におけるカウンセリングマインド、図書館活動におけるPDCA、評価のあり方についても学ぶ。学習成果の評価と活用については、「なぜ社会貢献するのか」という本質から論ずる。さらに、関連施設のネットワークの意義と方法について検討する。最後に、「社会教育指導者の役割」については、個人化支援、社会化支援の意義と方法、そして、そのどちらでもない居場所等における「第3の支援」のあり方を議論する。

アドバイス 自己内対話、対他者対話による能動的学習、双方向型学習は、本科目の眼目ともいえる存在である。そのため、ワークが始まってからの不参加は欠席と同等とみなすので注意されたい。グループワークが苦手な人には、他の役割を配慮するので、講義の途中で申し出を受け入れる。

図書館の基礎

講師 やまぐち 山口 ひろし 洋

講義概要・授業計画 初めて図書館情報学を学ぶ人たちが、最初に考えるべき基本的な知識と考え方を習得します。具体的には、図書館とは何か？ なぜ必要なのか？ なぜ司書の資格が必要なのか？ などについて図書館の発生から現在に至る歴史とともに、現在の図書館の種類、目的、活動を踏まえて考察します。また近年における図書館界の諸問題についても検討します。

授業の進め方は講義形式を中心としますが、適宜、受講生に発言を求めます。また受講生によるグループ討議や全体討論も行います。

1. 図書館とは何か
2. 図書館の歴史
3. 現代の図書館の種類と機能
4. 図書館の法的基盤
5. 公共図書館の役割
6. 図書館の理念
7. 図書館が抱える諸問題（時事問題から職員制度、運営形態まで）
8. まとめと試験

教科書 塩見昇 編著『図書館概論 五訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズ III 1）（日本図書館協会、2018）
今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第2版』（樹村房、2019）

参考書 前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス、2006）
（版元品切れにつき、最寄りの図書館で借りて読んでおきましょう）

アドバイス 上記参考書『新版 図書館の発見』を事前に熟読することをおすすめします。授業の理解が深まるでしょう。また図書館を利用して、各自の図書館のイメージを作りましょう。そのためにも、受講前までに身近にある地域の図書館を利用することと、色々な図書館を見学してみましょ。

講義概要・授業計画 図書館の基本的な機能は、利用者が求める資料・情報を的確かつ迅速に提供することです。その機能は、何のためにあるのでしょうか。それこそが図書館が存在する理由に他ならないと思います。図書館の様々なサービスを考えるにあたり、何のために図書館があるのかを常に問い続ける必要があるのではないのでしょうか。

図書館サービスのあり方について、現在の公立図書館を取り巻く様々な課題・問題をできるだけ具体的に取り上げ、皆さんと一緒に考えていく授業をめざします。そして、授業が終わった時に、図書館の存在理由について、皆さん自身の解が得られるようにしたいと思います。

1. 図書館サービスの理念と意義
2. 図書館サービスの計画と評価
3. 図書館活動の発展
4. 図書館サービスの現状と課題
5. 図書館づくりの政策と運動

教科書 今まど子・小山憲司 編著『図書館情報学基礎資料 第2版』（樹村房、2019）

参考書 前川恒雄、石井敦 共著『新版 図書館の発見』（NHK ブックス、2006）

アドバイス 常勤職員として図書館の仕事に就くことは、最近では非常に難しくなっていますが、初心を忘れずに努力を続けてください。何事にも問題意識を持って望むことは、特に大切だと思います。夏の暑い時期です。暑さに負けないように、体調管理には万全を期しましょう。

レファレンスサービス

講師 小南 理恵
こみなみ りえ

講義概要・授業計画 図書館は収集、組織、保存、提供の4つの基本的機能を持つと考えられていますが、このうちの提供機能を担うのが貸出とレファレンスです。この講義では、レファレンスの意義、レファレンス質問の受付から回答に至るまでのプロセス、レファレンスコレクションの構築などの情報源の組織について解説します。図書館におけるレファレンスサービスの位置づけと機能を確認し、レファレンスサービスの中心である質問回答と、それを支える仕組みづくりについて論じます。さらに、質問の受付から探索を経て利用者への回答を行うまでのプロセスを解説するとともに、レファレンス記録の活用についても触れます。

参考書 山崎 久道・原田 智子編著『改訂 情報サービス論』（樹村房、2019）

アドバイス 国立国会図書館が運営する「レファレンス協同データベース」(<http://crd.ndl.go.jp/reference/>)では実際のレファレンス事例が多数紹介されています。ぜひチェックしてみてください。

レファレンス資料の解題

講師 小南 理恵
こみなみ りえ

講義概要・授業計画 辞書や百科事典、年表や統計などのレファレンス資料は従来は冊子体が一般的でしたが、現在では、書誌や目録、索引などを含めてその多くがインターネット上で利用可能になっています。この講義では、レファレンス資料の種類と特質を論じるとともに、代表的なレファレンス資料について解説します。さらに、レファレンス質問の回答例を検討する中で、インターネット上での情報源の探し方と利用についても考えます。

参考書 長澤雅男、石黒祐子 共著『レファレンスブックス：選びかた・使いかた』三訂版（日本図書館協会、2016）

講義概要・授業計画 第四次産業革命のコア技術であるビッグデータ、AI、IoT、ブロックチェーン等の到来により、「マシン×人間の協働時代」や「一億総キュレーター時代」と言われる昨今、図書館のレファレンスサービスやそれを支えるシステムも変革を余儀なくされている。

また、学術文献は一次情報・二次情報やライセンス・オープンを問わず日々出版・公開され、インターネット空間にはソーシャルメディアやオープンデータ等が時々刻々と増殖し、その裏側では利用ログやセンサーデータが記録されている。これらのいわゆるビッグデータの中からノイズを排除し、ユーザーに必要と思われる情報を網羅的かつ効率的に収集し選別するにはAIなどの外部脳を巧みに使いこなすスキルが必要となる。

そのためには、最新技術動向を絶えず観察し、新しいサービスや製品が登場したら真っ先にトライアルしてみるといったアーリーアダプターの特性が求められる。特に、研究やビジネス領域に於いては、そのスピードとフィルターの精度が重要となる。その意味でも、今こそインフォプロである図書館員が図書館に限らず様々な場面で活躍できるチャンスと捉えることができる。

本講義の前半では、情報検索のしくみや情報資源・情報サービスについて解説すると共に既存のOPACやディスカバリーサービス等の図書館の検索サービスの課題やアップデートのポイントについて概説する。続いて後半では、これからの図書館およびインフォプロである図書館員はどのような情報技術を用いて、どのような検索サービスを創造し、提供していくべきかについてグループ演習を行う。

教科書・参考書 購入の必要はありません。以下は一部です。

- ・市古みどり、上岡真紀子、保坂睦 共著『情報検索入門』（慶應義塾大学出版会，2014）
- ・高野明彦 著『検索の新地平』（角川インターネット講座，2015）
- ・飯野勝則 著『図書館を変える！ウェブスケールディスカバリー入門』（ネットアドバンス，2016）
- ・一般社団法人 情報科学技術協会 監修／原田智子 編著／吉井隆明・森美由紀 著『検索スキルをみがく 検索技術者検定3級 公式テキスト』（樹村房，2018）
- ・一般社団法人 情報科学技術協会 監修／原田智子 編著／小河邦雄・清水美都子・丹一信・藤井昭子 著『プロの検索テクニック 検索技術者検定2級 公式推奨参考書』（樹村房，2018）

アドバイス 本講義では、キーワード検索、フルテキスト（全文）検索、横断検索、統合検索、ファセットなど情報検索に関する知識を習得し、グループ演習では、例えば「ブロックチェーン×カタログ」や「AI×レファレンサー」など最新の情報技術と図書館員のスキルを融合してセマンティックな情報検索サービスを模索します。ラフスケッチで構いませんので、事前にアイデアを考えてきてください。

図書館の資料

講義概要・授業計画 図書館の構成要素といわれる「資料」「施設」「職員」のうち、サービスの基本となる図書館の資料について学びます。具体的には、図書館資料の歴史、種類、流通、選択と蔵書構築、保存、管理法を学ぶことに加えて、図書館がインターネット情報資源をどのように位置づけることが望ましいのか、また、図書館サービスの現場で発生する諸課題と今後の展望についても学びます。

教科書 馬場俊明 編著『図書館情報資源概論』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8）（日本図書館協会，2018）

アドバイス 利用者の図書館利用の目的は多様です。ただ、言えることは、趣味として、資格取得のため、授業の予習・復習のためであれ、図書館が利用者の目的に対してあらゆる支援をする姿勢とたゆまず持ち続ける創意工夫が大切だということです。ネット時代にあって変化は著しいものがありますが、これを恐れることなく、チャレンジ精神で取り組んでいきましょう。どのように振舞うのが図書館の司書らしいのかを問うのではなく、何が図書館の利用者の読書欲や知識欲に応えられるサービスになるのかを問い、それを図書館の「資料」収集や管理に活かしていきたいものです。

講義概要・授業計画 図書館の仕事は、貸出・返却やレファレンスのような対人サービス（直接サービス；パブリック・サービス）ばかり注目されがちですが、利用者に適切な資料や情報を提供するには、情報資源を収集し、整理しておく必要があります。無数にある情報資源の中から利用者が必要なものを呼び出すために「データを作成」し（目録記述）、それらを適切に配置・提示するために「内容に応じて分類」する（主題分析）という作業は今も昔も図書館の重要な任務のひとつです。これらの作業は直接サービスに対して「間接サービス（テクニカル・サービス）」と呼ばれますが、この講義ではこれらの意味と必要性、歴史的経緯、現代の図書館における状況および近い将来予定・予想されることについて取り扱います。

教科書 那須雅熙著『情報資源組織論及び演習 第2版』（ライブラリー図書館情報学9）（学文社、2016）

参考書 ※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）
日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂10版』（日本図書館協会、2014）
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第4版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス 整理業務は、利用者の目からは見えづらい「縁の下の力持ち」の部分ですが、図書であれ電子情報源であれ、適切な目録と分類がなければ情報を探すことはできません。なるべく身近な話題や新しい話題、珍しい資料の紹介なども交えていくので、どうぞ整理業務にも関心を持ってください。

講義概要・授業計画 整理業務の重要性は「資料の整理」で講義する通りです。この演習では「資料の整理」の講義を踏まえて、業務の実際にあたってどのように整理するか、(1) 日本目録規則 (NCR) (2) 日本十進分類法 (NDC) (3) 基本件名標目表 (BSH) といった各種のツール（道具）の使用方法を中心に、初歩的・基本的な実践能力を身につけます。演習は複数人のグループで実施します。

教科書 那須雅熙著『情報資源組織論及び演習 第2版』（ライブラリー図書館情報学9）（学文社、2016）

参考書 ※下記の参考書につきましては、大学で用意して貸出いたします。
日本図書館協会目録委員会編『日本目録規則 1987年版改訂3版』（日本図書館協会、2006）
日本図書館協会分類委員会改訂『日本十進分類法新訂10版』（日本図書館協会、2014）
日本図書館協会件名標目委員会編『基本件名標目表第4版』（日本図書館協会、1999）

アドバイス 整理演習は小難しい用語が多く、膨大な規則や表を前にすると身構えてしまう人が多いですが、実は基本的な使い方さえおさえてしまえば後はツールを参照しながらの作業です。難しいことと考えず、肩の力を抜いて、「知識の宇宙」を散歩するような気持ちでいきましょう。

講義概要・授業計画 この講義は公共図書館における児童を対象とするサービスを中心に講義を進めます。また、児童向け図書資料への理解と子どもと本を結びつける技術の習得をめざします。前半は児童サービスの意義、児童室の運営や業務、児童図書や児童サービスの歴史について講義し、後半は子どもと本を結ぶ「読み聞かせ」演習を行います。また、ブックスタートからヤングアダルトサービスに至るまで発達段階に応じた読書支援活動のうち「ブックトーク」「ストーリーテリング」「読書のアニメーション」等について解説しグループで実習します。演習・実習については1日目に説明します。

1. 児童サービスの意義と役割
2. 子どもの発達と読書
3. 児童室の運営と業務・児童図書館の歴史
4. 児童資料の種類
5. 「読み聞かせ」解説と演習
6. ブックトーク・ストーリーテリング・読書のアニメーションの解説と実習
7. ヤングアダルトサービス
8. 学習支援としての児童サービス及び今後の課題

参考書 堀川照代編著 『JLA 図書館情報学テキストシリーズ III6』（日本図書館協会、2014.）

アドバイス 講義とともに読み聞かせ実習を行います。読み聞かせ実習用に準備していただく図書資料は本学図書館児童室にある世界の絵本コレクションを活用なさると良いでしょう。ストーリーテリング・読書のアニメーション演習用の資料はこちらで準備します。

講義概要・授業計画 この講義はメディア・リテラシーの修得を目的とします。メディア・リテラシー(media literacy)という言葉の概念については、「情報を評価・識別する能力」、「情報を処理する能力」、「情報を発信する能力」などといった解釈がされていますが、この授業では「情報を評価・識別する能力」という意味のメディア・リテラシーについて、以下の順に説明・考察していきます。

1. 表現の自由の意味と意義
2. 報道の使命とニュースの価値判断
3. ニュースの機能と効果
4. 世論形成の仕組み
5. 報道と人権①名誉棄損と免責
6. 報道と人権②プライバシーの侵害と免責
7. 報道と人権③人権問題をめぐる判例の考察
8. 報道と人権④差別用語・ヘイトスピーチ

参考書 吉見俊哉 著『メディア文化論』（有斐閣アルマ、2012）

アドバイス 夏期講習は肉体的にも、精神的にも消耗戦です。しかし、成し遂げたものにしか分からない満足感と充実感、そして何より知的財産が得られます。そのような知的財産の伝播と社会的利益との関係を考察しましょう。